

公益社団法人 日本臨床細胞学会
平成 26 年度(2014 年度)第 1 回理事会議事録

日 時：平成 26 年 6 月 5 日(木) 12 時 30 分～15 時 30 分

場 所：パシフィコ横浜 503 (5 階)

役員総数： 39 名 (理事 39 名, 監事 3 名)

出席総数：理事 39 名

(理事長)佐々木寛 (理事)青木大輔, 池田徳彦, 石井保吉, 伊藤潔, 伊藤仁, 稲山嘉明,
岩坂剛, 植田政嗣, 岡本愛光, 落合和彦, 加来恒壽, 覚道健一, 方山揚誠, 亀井敏昭,
河原栄, 川本雅司, 紀川純三, 越川卓, 児玉省二, 是松元子, 齋藤豪, 寒河江悟,
佐藤之俊, 竹島信宏, 生水真紀夫, 白石泰三, 鈴木光明, 関根浄治, 土屋眞一, 内藤善哉,
中村直哉, 根本則道, 羽場礼次, 広岡保明, 森谷卓也, 八重樫伸生, 横山繁生, 若狭研一
(監事)長村義之, 柏村正道, 長谷川壽彦
(総務幹事)板持広明, 大澤政彦, 加藤久盛, 渋谷秀美, 土居大祐, 服部学, 星利良,
山下博
(施設認定制度の適正運用検討小委員会委員長)小笠原利忠
(制度審議委員会陪席)北村隆司, 平田哲士
(会計士)中田ちず子

議長選出の議：本学会定款第 33 条に則り, 佐藤之俊総務委員長が議長となった。

議長 佐藤之俊総務委員長は定款第 34 条に則って, 理事総数の過半数(39 名)
の出席により定足数を満たしたので本法人の理事会が成立した旨を述べた。

議事録署名人選出：定款 35 条に則り, 議事録署名人は理事長並びに監事 3 名とすることが
確認された。

理事長挨拶：佐々木 寛

第 55 回平成 26 年(2014 年)春期大会挨拶：加藤久盛副大会長

1. 理事長報告：佐々木 寛

1) 細胞診 60 周年記念式典について

平成 26 年 4 月 21 日にパレスホテル東京にて細胞診 60 周年記念式典を開催し, 秋篠
宮殿下, 妃殿下ご臨席のもと盛況に終了することができた。式典については, 皇室ア
ルバム, 産経新聞等の報道機関に取り上げられた。

2) 平成 25 年度決算および平成 26 年度予算について

公益社団法人となって 1 年が経過した。本学会が NPO 法人から公益社団法人に変わり、法人としての構造変化や公的機関としての機能に対する早急な体制を整備するために種々の委員会や各ワーキンググループを立ち上げ理事長諮問の活動を行ってきた。また、臨床試験が行える公益社団法人として学術的に格上げするために学会主導の臨床試験を行っている。このため、以前より、財政上、支出が増えているのが現状である。前年度は赤字決算となり、本年度も赤字予算を組む予定であるが、これは本学会の将来に向けての基盤をつくるために大切な出資であることをご理解頂きたい。

3) 理事選挙について

先日、評議員選出の選挙が終了し、公益社団法人となつてはじめての理事選挙が行われる。種々の困難な点が予想されるため、各理事の先生のお知恵を拝借したい。

4) 社会保険について

平成 26 年度診療報酬が改正され、社会保険委員会の稲山委員長のご努力により、婦人科領域においては最初から液状化検体細胞診が使用可能となり、婦人科材料等液状化検体細胞診加算として、18 点を所定点数に加算されるようになった。これは、非常に画期的なことである。現在、内保連内に病理関連委員会が新設されることとなっており、本学会として従来上手くいかなかった保険行政が実行される仕組みが出来た。

5) 専門医制度について

先日、社団法人「日本専門医機構」がスタートした。この機関に細胞診専門医が新しい専門医として早急に認可してもらえよう、細胞診専門医委員会 植田委員長とともに申請を早急に行いたい。

6) 臨床研究について

本学会主導の婦人科臨床試験は、青木副理事長を委員長として順調に進行している。今後も継続して行う予定である。また、B.D.社をはじめとする各施設からの委託研究も行っており、これからも引き受ける形である。現在、公益社団法人として、大学と同様に公的研究機関としての申請を文部科学省に行っている。許可されれば、日本臨床細胞学会の名称で研究者の申請番号を登録出来る団体に格上げ出来る。今後の方向性として、臨床研究を引き受ける場合は、透明性に十分留意していきたい。

2. 副理事長報告

岩坂 剛：佐々木理事長を中心とした全般的な学会運営に協力。学術方面を担当し、春・秋、年 2 回開催されている学会プログラム作成に協力。55 回春期大会においては細胞診専門医選定指定講座の選定、専門医会会長の意向に沿った形での専門医セミナーの選定、教育研修指導医セミナー等々の選定を行った。

土屋 眞一：昨年、理事長諮問の細胞診ガイドライン作成ワーキンググル

ープを立ち上げた。内藤理事を総括責任者とし、現理事の約半数が約 20 種類の各臓器の編集に関わっている。来年の 3 月を目途に、5,6 冊に分冊して日本臨床細胞学会として発刊予定。現時点では、用語統一が未だなされていない状況のため、数年を目途に改訂を行っていく予定である。

- 青木大輔：1) 財務. 計理委員会 池田委員長を中心に申し分なく行われているが、全体の流れとしては赤字基調である。公益社団法人としてスタートしたことによる出費や委員会活動の活発化による出費等々があり、少し落ち着くまでは状況をしっかりと見守っていききたい。また、計理委員会においては、赤字基調の対策も考案されており、その声明を待ちたい。
- 2) 国際交流. 内藤理事を委員長とする国際交流委員会にてアジアを中心とした国際交流が活発に行われている。引き続きお願いしたい。
- 3) IAC. 長村監事が 2016 年に IAC の理事長に就任予定であり、全面的に本学会にてバックアップしていききたい。また、同年に、the 19th International Congress of Cytology (略称: ICC2016) のお世話をする事になっており、同時に上手く連携をとりながら進めていきたい。
- 4) 選挙. 今年度は公益社団法人になってはじめての選挙であり、理事長より選挙委員長を任命された。先日、評議員選出委員会を行い、評議員選挙は終了した。次は、理事候補選挙委員会を立ち上げ、理事選出を行う予定である。

若狭研一：細胞診専門医委員会の植田委員長とともに、細胞診専門医試験・専門医教育研修についての充実化を図ってきた。このまま継続していくことで、細胞診専門医は日本の専門医制度の中で大きな位置を占めていけると思われる。

3. 庶務報告 (佐藤之俊 総務委員会委員長)

全会員数：11,929 名 (正会員 5,582 名, 準会員 6,318 名, 図書会員 29 件)

細胞診専門医数：2,698 名 (実数) (認定 3,171 名)

F I A C : 111 名 M I A C : 38 名

細胞検査士数：7,116 名 (実数) (認定 8,831 名)

C T (I A C) : 4,752 名

物故会員

(正会員)

名 誉 会 員 ^{すぎした}杉下 ^{ただし}匡 先生 ((医) 育愛会 育愛会レディースクリニック
産婦人科 名誉顧問)

功 勞 会 員 ^{まどころ}城所 ^{つとむ}仿 先生 (国際親善総合病院 名誉顧問)

細胞診専門医 ^{すえひろ}末廣 ^{やすこ}泰子 先生

	安藤 政克	先生 (旭川赤十字病院 病理診断科)
	早田 隆	先生 (白浜病院 精神科)
	鹿島 健司	先生
医師会員	石川 久夫	先生 ((医) 社団石川産婦人科 院長)
細胞検査士 (準会員)	千田 育司	殿 (大阪府医師会保健医療センター 病理細胞診)
細胞検査士	馬渡 聖子	殿 (佐賀県医療センター好生館 病理検査科)
	荻原 重正	殿 (小諸厚生総合病院 臨床検査科)
	成澤 知里	殿 (医療法人社団圭春会小張総合病院 病理部)

黙禱

- 第 53 回平成 26 年(2014 年)秋期大会準備状況 : (亀井敏昭理事)
会期 : 平成 26 年 11 月 8 日(土)・9 日(日)
場所 : 山口 海峡メッセ下関・下関生涯教育プラザ
- 第 56 回平成 27 年(2015 年)春期大会準備状況 : (紀川純三理事)
会期 : 平成 27 年 6 月 12 日(金), 13 日(土), 14 日(日)
場所 : 松江市 くにびきメッセ (島根県立産業交流会館)
- 第 54 回平成 27 年(2015 年)秋期大会準備状況 : (越川卓理事)
会期 : 平成 27 年 11 月 21 日(土)・22 日(日)
場所 : 名古屋 名古屋国際会議場
- 第 57 回平成 28 年(2016 年)春期大会準備状況 : (青木大輔副理事長)
会期 : 平成 28 年 5 月 27 日(金), 28 日(土), 29 日(日)
場所 : 神奈川 パシフィコ横浜

8. 審議事項および議決結果

審議事項

- 1) 平成 27・28 年度評議員選出について
- 2) 平成 27・28 年度理事選出について
- 3) 会員資格喪失者の会員資格復帰について
- 4) 第 55 回 (2016 年) 秋期大会長選出について

議事の経過の概要および議決結果

- 1) 平成 27・28 年度評議員選出について
平成 26 年 5 月 10 日に評議員選出委員会が開かれ, 評議員候補者の選出を行った。本

年度の正会員数は 5558 名であり、評議員申請者 489 名中、施行細則上の正会員数の 8% を超えない、上位 444 名が評議員候補者として選出され、全候補者が評議員として承認された。

2) 平成 27・28 年度理事選出について

理事候補選挙管理委員会の構成案が青木委員長より提示され、承認された。また、青木委員長より、1) 理事選を立候補制とする 2) 地方選出理事の比例配分について各地域に必ず最低 1 名の理事候補者を配し、全評議員数の約 10% に理事候補 1 名を各地域の評議員数に応じて追加配分することが提案され、それらに関する施行細則の改定案が資料に沿って提示され、協議の結果、承認された。

3) 会員資格喪失者の会員資格復帰について

会員資格の復帰希望者が 3 名おり、いずれも免許停止前の滞納年会費の完払と理事長の承諾という内規上の基準をみたしており、希望者全員の会員資格復帰が承認された。

4) 第 55 回（2016 年）秋期大会長選出について

横山繁生理事が推薦され、全員一致で承認された。

9. 各種委員会での議事の経過概要および議決結果

総務委員会（委員長 佐藤之俊）

〔報告事項〕

1. 平成 25 年度事業報告、決算案および平成 26 年度定時社員総会開催についてみなし理事会が開催され、承認された。
2. 総会準備状況について
平成 26 年 6 月 7 日 16:00~18:00 パシフィコ横浜 1 階メインホールにて開催予定。

〔審議事項〕

1. 現状に即した交通費の支給方法についての原案を総務委員会内で作成することが承認され、原案の理事会内での審議・承認後、細則を改定する方向性が示された。
2. 2011 年および 2012 年の会費滞納者の一覧が提示され、会員資格が停止されることが承認された。

情報処理委員会（委員長 石井保吉）

〔報告事項〕

1. 総会へ向けての総務委員長からの配信メールを要約し、47 都道府県細胞検査士会代表者へメール配信した。
2. ホームページ、とくに、試験要項や資格更新・施設認定・選挙についての項目が見にくいとの指摘があった。今年度は改善を加える予定である。

〔審議事項〕

特になし